

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.

2914

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	<input type="checkbox"/> 対面（ ）	
				<input type="checkbox"/> オンライン（同時・録画・資料提示）	
				<input checked="" type="checkbox"/> その他（ 未定 ）	
	2. 正式科目名 副題	地域総合計画論		配当年次	2・3・4
			受入学年		
学問分野	番号	27	名 称	社会科学系 その他	
3. 担当教員名	恩田 守雄				
4. 単位数	2単位	5. 開講学期	前期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2023年 9月 1日（金）～		2023年 9月 30日（土）		
	曜日 : ~ :				
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	人	9. 選考方法			

<p>10. 科目内容・授業計画</p>	<p>本講義は地方自治体で策定される総合計画を理解し、その望ましいあり方について考えることを目標とします。総合計画は一般に基本構想、基本計画、実施計画の三層構造からなりますが、広域的自治体の県と基礎的自治体の市町村では性格が異なります。近年住民参加型の計画が多くなり、市民と行政の協働が重視されるようになりました。市民がどのように参加（参画）できるのか、自ら市民の側に立ち計画策定に関わった体験から、その現状と課題について講義します。計画の総論に対する各論では、地域づくりの視点からテーマ別に内容を検討します。具体的な事例を通して問題の発見、分析、解決策の提示というステップを踏みながら授業を進めます。現在少子高齢化が進み、「地方創生」が喫緊の課題となっています。学生諸君は本講義を通して、出身地の地域づくりについて考えてください。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域総合計画の三層構造について理解し説明できる。 2. 市民と行政の協働（計画、実施、評価の各レベル）について理解し説明できる。 3. 地域づくりの理念と手法について理解し説明できる。 <p>第1回 インTRODakション-社会科学（社会学）入門 学問とは何か、社会科学の特性、社会科学の一分野である社会学について説明します。</p> <p>第2回 地域総合計画とは何か-基本構想、基本計画、実施計画の三層構造 総合計画の構造は二層構造もありますが、基本構想、基本計画、実施計画の三層構造から解説します。</p> <p>第3回 県の総合計画と市町村の総合計画 広域的自治体と基礎的自治体の総合計画の違いについて説明します。</p> <p>第4回 住民参加型の計画-市民と行政の協働による計画策定 アンケートや審議会のあり方など、市民と行政の協働による計画づくりについて問題と課題について解説します。</p> <p>第5回 計画の実施と評価 実施と評価の各レベルで住民参加の可能性について考えます。</p> <p>第6回 地域づくりとしての総合計画と分野（テーマ）別計画 各部署がつくる個別計画と整合性をもつ最上位の計画のあり方について説明し、地域づくりの方法について解説します。</p> <p>第7回 総合計画の各論Ⅰ-都市基盤・生活基盤分野の地域づくり 地域づくりを生活インフラの整備から考えます。</p> <p>第8回 総合計画の各論Ⅱ-産業・経済分野の地域づくり 地域づくりを地場産業の育成から考えます。</p> <p>第9回 総合計画の各論Ⅲ-環境・健康・福祉分野の地域づくり 地域づくりを少子高齢化の問題から考えます。</p> <p>第10回 総合計画の各論Ⅳ-交流・コミュニティ分野の地域づくり 地域づくりを都市と農村の交流や国際交流、コミュニティ・ビジネスから考えます。</p> <p>第11回 総合計画の各論Ⅴ-教育・文化分野の地域づくり 地域づくりを人材育成や郷土資源から考えます。</p> <p>第12回 ケーススタディⅠ-島根県と埼玉県 地元島根県と教員の居住地埼玉県の総合計画を比較し望ましい地域づくりを考えます。</p> <p>第13回 ケーススタディⅡ-政令指定都市（さいたま市、広島市、福岡市） 政令指定都市固有の地域づくりについて考えます。</p> <p>第14回 ケーススタディⅢ-松江市と浜田市 県庁所在地松江市と地元浜田市の総合計画を通して島根県の地域づくりについて考えます。</p> <p>第15回 エピローグ-まとめ これまでの内容を概観し、各自の出身地（居住地）の地域づくりについて考えます。</p>						
<p>11. 試験・評価方法</p>	<p>・試験 60% ・小レポート（コメントシート） 20%、・平常点（出席、授業態度） 20% 試験 100 点の内訳：問題 2 問とも正解の場合 80 点以上（秀・優）、1 問正解ほか 1 問不十分の場合 70 点台（良）、1 問のみ正解の場合 60 点台（可）、2 問とも不正解の場合内容を考慮して採点（可・不可）。</p>						
<p>12. 別途負担費用</p>	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恩田守雄『グローバル時代の地域づくり』（2010 年、学文社）。 ・恩田守雄『共助の地域づくり-「公共社会学」の視点-』（2014 年、学文社）。 						
<p>13. その他特記事項</p>	<p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恩田守雄『医学生のための社会学入門』（2016 年、晃洋書房）。 ・恩田守雄『支え合いの社会システム』（2019 年、ミネルヴァ書房） ・恩田守雄『開発社会学』（2006 年、ミネルヴァ書房）。 <p>【その他】 広く社会的な知見に基づく地域づくりについての授業をします。科目等履修生、聴講生、単位互換学生も歓迎します。</p> <p><教員（非常勤講師）のプロフィール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻博士課程終了 博士（社会学） ・専門分野：社会学（経済社会学、開発社会学、民俗社会学、地域社会論<地域づくり>） ・資格：「専門社会調査士」（社会調査協会）、「総合旅行業務取扱管理者」（国土交通省） 						
<p>14. 社会人受講</p>	<table border="1"> <tr> <td>科目等履修生（単位付与）として受け入れ</td> <td>可</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>聴講生（単位認定不要）として受け入れ</td> <td>可</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table>	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>
科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>					
聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>					

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。